

はじめに

今回の発掘調査は、京都府向日町競輪場の敷地再整備工事に先立って、令和6年度から実施しているものです。

調査地は、長岡宮の西端に位置し、西辺官衙や宮の西辺を画する西一坊大路が推定される地点です。昭和60年度・平成2年度に行われた調査（宮第164次・250次）では、長岡京期の建物や溝などが確認されています。

西一坊大路と宮内道路

今回の調査では、溝6条、柱列1条、掘立柱建物1棟を確認しました。溝1・2は南北方向の溝で、このうち溝2については、宮第250次調査で確認されていた溝の延長部にあたります。

当該地は、西一坊大路が想定される地点ですが、昨年度の調査では西側溝にあたる溝が検出されておらず、今回の調査でも、溝1や溝2に沿って宮の出入口である門や築地大垣といった施設が確認できませんでした。このことから、調査地周辺には西一坊大路が敷設されていなかった可能性も考えられます。これについては、調査地のすぐ西側まで丘陵が迫っており（現在は



宮内道路の両側溝(西から)

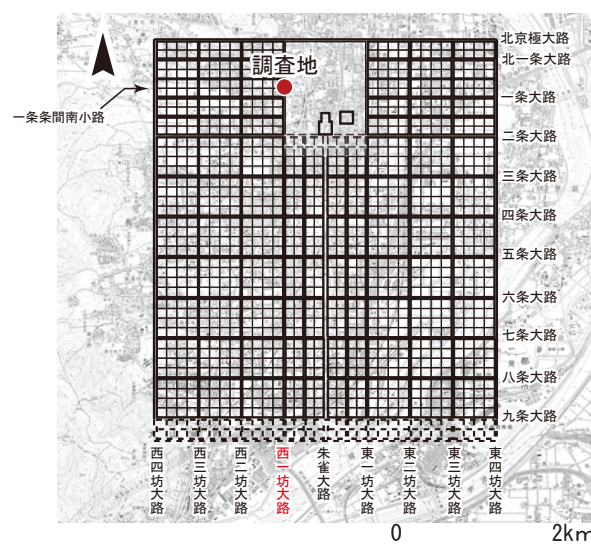
大きく削られています)、西一坊大路の施工が困難であったことが原因とみられます。

溝3・4と溝5・6は東西方向の溝で、検出位置等からいずれも東西道路（一条条間南小路延長道路）の北側溝及び南側溝と考えられます。溝3については、宮第164次調査時に確認されていた溝の延長部にあたります。

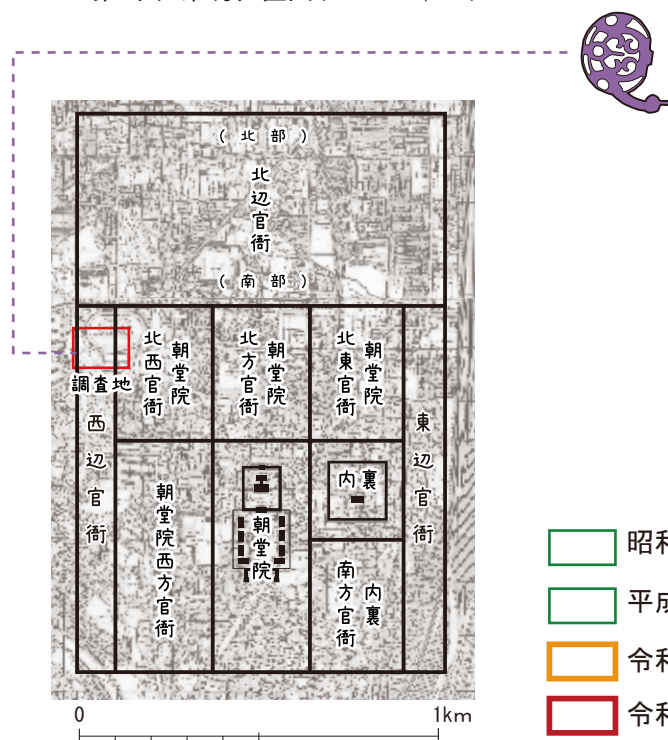
溝1～6は、いずれも溝が2条ずつ並行します。その評価については2つの考え方があります。1つはそれぞれの溝が個別に存在して時期差があるという考え方。もう1つは、2条の溝の間に築地があって、官衙域や何らかの施設を区画していたという考え方。現時点ではどちらとも断定できません。



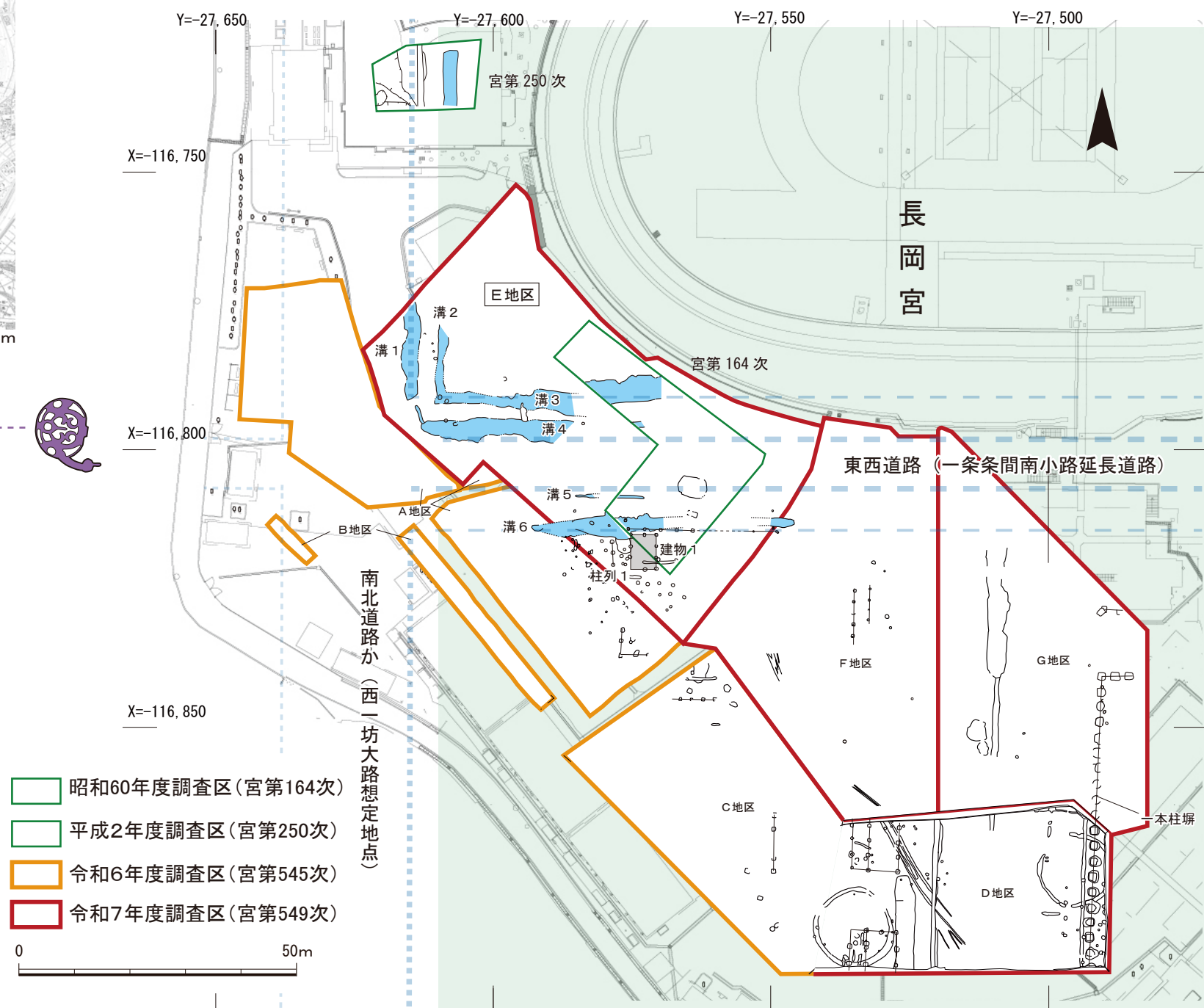
さしげに
出土した緡銭



第1図 条坊位置図(S=1/100,000)



第2図 長岡宮官衙配置割付図
(向日市教育委員会 1982)



第3図 調査区配置図(S=1/1,000)

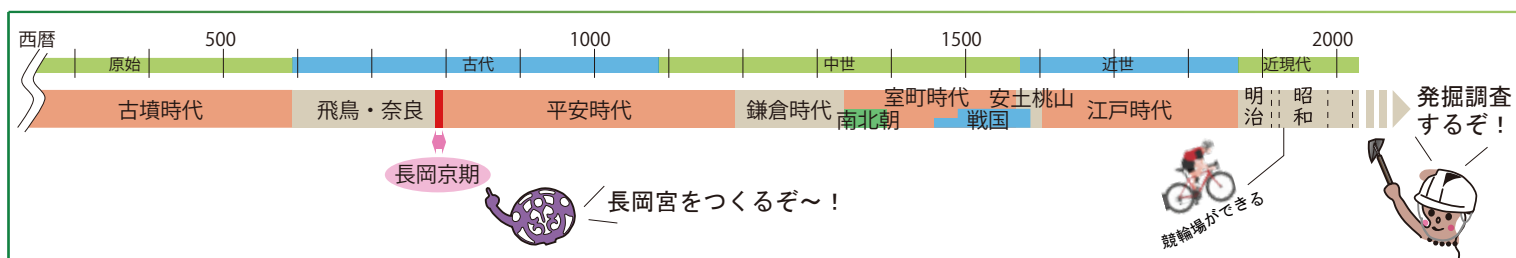
柱列1は、南北方向の2間を測る柱列です。宮第164次調査で確認された東西方向の柱列と一連の遺構になる可能性があります。

建物1は、宮第164次調査で見ついていた建物の延長部にあたり、東西2間(4.6m)・南北3間(6.1m)の南北棟です。検出状況から、建物1の廃絶後に溝6が掘削されたと考えられます。

なお、溝4からは、^{まんねんつうほう}萬年通寶や^{じんぐうかい}神功開^{ほう}寶など長岡京期の銅銭を紐で束ねた^{さしぜに}緡銭が見つかりました。



G地区で検出した大型柱穴列(南から)



まとめ

今回の調査では、長岡宮の西端とされる西一坊大路推定地で南北方向の溝と、そこから「L」字状に屈曲して施工された東西方向の道路の側溝などが見つかりました。しかし、西一坊大路に面して存在すると考えられていた長岡宮西面の築地大垣は、今回の調査では確認することができませんでした。また、東西道路（溝3・4と溝5・6の間）では長岡宮の外とつながる門などの施設は確認できず、さらに、この付近には丘陵が迫っているため、西一坊大路も敷設されていなかったと推定できます。

このようなことから、今回の調査地周辺に宮を区画する施設が存在しなかった可能性があります。

ところで、先に掘立柱建物として報告したD地区の大型柱穴列ですが、その後のG地区の調査（上写真）で一本柱塀であることがわかりました。このような一本柱塀は長岡宮内では類例がなく、また、今回の調査地周辺では西一坊大路が敷設されていない可能性があることから、宮の西辺を区画したり、何らかの施設を区画する目的の一本柱塀と考えられます。今後、周辺での調査を受けて、さらなる検討を行なっていく必要があります。

京埋セ現地説明会資料 25-4
令和7年10月25日(土)

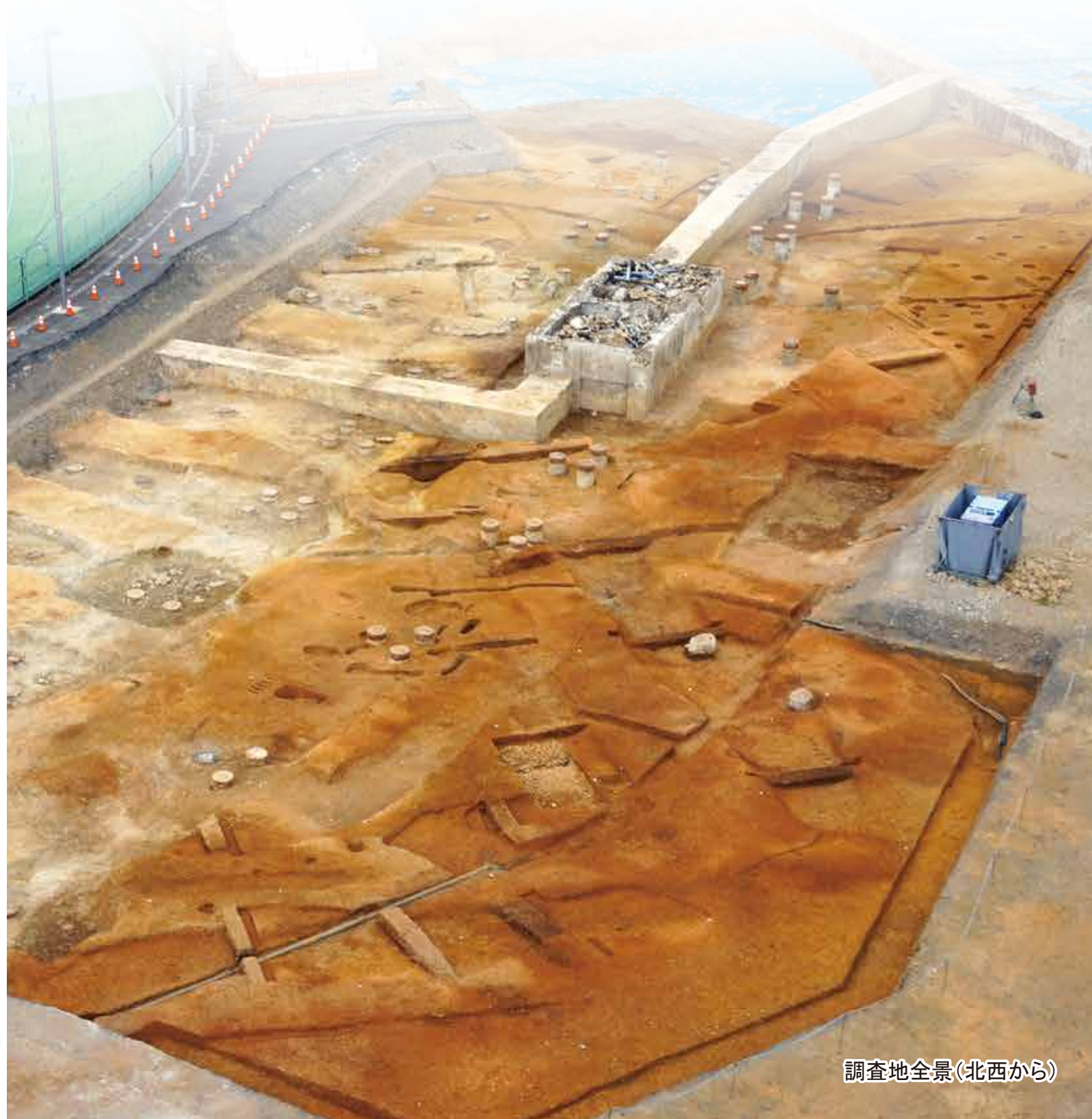
ながおかきょうあと

長岡京跡 (宮第549次調査)

調査場所 向日市寺戸町西ノ段(向日町競輪場内)

調査期間 令和7年4月30日～令和8年2月下旬(予定)

調査機関 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター



調査地全景(北西から)



公益財団法人
京都府埋蔵文化財調査研究センター
〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40-3
<http://www.kyotofu-maibun.or.jp>

ホームページ



(旧Twitter)



Facebook

